

教科	芸術	科目	音楽 I	単位数	2単位	年次	1年
使用教科書	MOUSA I (教育芸術社)						
副教材等							

1 授業及び学習の方法等

芸術としての音楽の表現方法を学ぶために、作品について理論的、技術的な面からアプローチする。理論については講義形式を主とし、それらを基に生徒自身で表現技術の向上に取り組んで行く。互いに意見を出し合い、表現力の向上と創作に取り組む。芸術作品や民族音楽、伝統音楽等の鑑賞は、歴史的、文化的な学習をした上で取り組み、感覚的なものだけでなく、その内容や背景をより深く理解するように努める。楽典は、確認テストを行う。ワークシートを作成し、学習の進み具合や自らの技術的課題をその都度確認し、単元のまとめとしてレポートを作成、演奏発表(実技テスト)を行う。

2 学習の到達目標

楽典を学ぶことで、特にリズムについては楽譜から表現できる能力を身につけると共に、歌唱や楽器演奏、創作活動に活かされるようになる。西洋音楽について芸術作品における作者(作曲家)の意図を考え、鑑賞によって表現の広がりを理解する。世界の民族音楽、伝統音楽の学習においては、それぞれの歴史的、文化的背景を理解し、鑑賞を通して美意識の違いを認識する。歌唱および器楽の演奏技術の基礎を学び、自らの表現に活かすと共に、他者の演奏を聴いてその意図を理解出来るようになる。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a: 知識・技能	b: 思考・判断・表現	c: 主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	楽譜の基礎を理解し、正確な速度とリズムで演奏し、表現に活かすことが出来る。 歌唱において発声法や呼吸法に気をつける。 器楽において、楽器の特性と演奏方法を理解して演奏する。 芸術作品や民族音楽等の文化的、歴史的背景を理解しようとする。 様々な演奏を、尊敬を持って鑑賞する。	楽譜の知識を芸術作品の理解と演奏、創作に活かされるようになる。 歌唱において、自らの声域に適した調を認識した上で、音程だけでなく、楽譜の様々な記号を理解して演奏する。 器楽演奏において、5線上の音と共に、フレーズ感、強弱、速度に気をつけて演奏する。 グループ学習において、自らの意見を発表し、他者と共に表現の工夫に努めて演奏する。	学習した楽曲について、自らの考えを含めて述べる事が出来る。 演奏において、難しい技術に挑戦し、練習する。 自らの演奏を客観的に観ることが出来、他者の演奏を様々な観点で聴くことが出来る。
評 価 方 法	・小テスト ・実技テスト ・レポート 楽典の確認テストは授業中に小テストとして行う。 実技テストは他の生徒に公開する場合と非公開とする場合がある。 単元ごとにレポートを作成する。	・実技テスト ・記録 ・レポート 実技において、生徒自前で練習過程、自らの振り返りを記録する。 実技テストは、正確な評価のため録画・録音する場合がある。 レポートについては内容の理解度および自身の考えを述べる事が出来るように配慮する。	・レポート ・受講態度 主に、練習時の協力体制や態度、記録、レポートから評価する。

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間		1.楽典(楽譜の基礎、音名、拍子、音程、調性、三和音) 教科書、プリント 音楽表現に必要な理論の基礎を学ぶ(通年適宜)	1a.きちんと理解出来ているか
		2. Caro mio ben 教科書 歌唱および作詞者、作曲者についての理解	2a. 楽曲について内容を理解し、音程と歌詞(イタリア語)が正確に歌えたか 2b. 強弱記号、速度記号を理解して演奏出来たか 2c. 自分の声域に合った調を見つけて歌えたか
前期 期末		3. ソルフージュとリズム打ち 教科書及びプリント 楽譜を見て正確なリズムと速度で演奏する	3a. 音符の長さを理解しているか 3bc. 速度を一定にするための工夫が感じられるか 3c. 上記のための練習過程を記録しているか
		4. Heidenröslein(シューベルト、ヴェルナー) 教科書、プリント 歌曲の理解、作曲者の意図を楽譜から読み取り、表現の違いを知る	4a. 歌詞を理解し、楽譜と対応出来たか 4b. 作曲者の工夫を理解しているか 4c. 学習内容をまとめたレポートが作成出来たか
後期 中間		5. クラップ、ボディパーカッション、ミュージックベル 教科書、プリント 身近な音素材(手拍子や楽器等)を使用して、音楽作品として合奏する。	5a. 演奏方法を理解しているか、楽譜が作成出来たか 5b. 作品として完成させ、表現出来ているか 5c. 自らの演奏と、他者と合奏を正しく演奏し、協力して仕上げられたか
後期 期末		6. 世界の諸民族音楽、音楽史について 教科書、プリント 歴史的、文化的な理解と鑑賞	6a. 諸民族の音楽の歴史を知り、美意識に目を向けられたか 6b. それぞれの共通点や相違点に気づけたか 6c. それぞれの国や地域についてもっと知ろうとしたか

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

教科	芸術	科目	美術 I	単位数	2単位	年次	1年
使用教科書	新・高校生の美術1（日本文教出版）						
副教材等	なし						

1 授業及び学習の方法等

<ul style="list-style-type: none"> 工業製品や手をデッサンすることによって観察眼と集中力を養う。 模写をすることによって、客観的に観察し、的確な描写力と集中力を養い、それによって、形をつかみ、見分け、再生する能力の習得を目指す。 コラージュ(貼り絵)の制作によって、描くという事が苦手な生徒でも抵抗なく取り組み、描くこと以外の表現の可能性を学び、構成能力を養う。 過去から現在へと続く美術の流れ(美術史)を学ぶことによって、作品に対する理解を深める。実習との相乗効果が得られるような授業展開を目指す。 樹脂粘土を用いた制作を通して、三次元での造形表現の基礎を習得する。
--

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> 美術表現の基礎の習得 広い想像力を養い、想像したものをビジュアル化する能力の習得 多様な表現技術の習得 形をつかみ、見分け、再生する能力の習得 作品制作の過程を的確にシミュレーションし実行する能力
--

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	<ul style="list-style-type: none"> 平面表現と立体表現の基礎の習得 「モナリザ」への客観的な視点と理解 「モナリザ」らしさを踏まえた表現 構図と色彩構成のセンス 一般教養的な美術史の知識の習得 樹脂粘土の特徴の理解 多様な立体表現の知識 制作するための具体的な知識と段取り力 プレゼンテーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> 鉛筆デッサンにおけるグレースケールの意味の理解 デッサンの三要素の、形、質感、量感の理解とそれにのっとった表現 ニュアンスの差異の気づき 観察力の未熟さの認識 多様な発想 様々な素材から自分の意趣に沿った種類を集め、制作意図にあった色形を考えた構成力 時代背景を含めた美術史の考察 多様な発想 制作過程のシミュレーション能力向上と実行のための段取り力の習得 プレゼンテーション能力 	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧な観察力と、集中力 客観的な視点 丁寧な観察力と集中力 発想力と集中力 丁寧な観察力と集中力 興味を持ち知ろうとする探究心 仕上げの丁寧さ 真面目な制作態度
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品 レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 提出作品 レポート 	<ul style="list-style-type: none"> 授業での取り組みの様子 各時間・各課題ごとの振り返りプリント

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
年間		1.1.今日の気持ち 年間を通し事業開始時に「今日の気持ち」 をテーマに色鉛筆で表現をする 2.年間を通しての課題プリント数点	1a.素直な気持ちを持ち、色鉛筆で素早く表現する技術 1b.素直な気持ちをもって素早く表現する能力 1c.課題を理解し、毎時間取り組む集中力
前期中間		2.鉛筆デッサン(紙コップ) デッサンの基礎を知る 1 3.模写(モナリザ) 客観的な視点で分析し、微妙なニュアンス に気づき再現する	2a.紙コップの形の仕組みを知識として理解しているか 2b.グレースケールを習得・応用して質感量感が表現で きているか 2c.丁寧な観察力と、集中力・客観的な視点 3a.「モナリザ」への客観的な視点と理解 「モナリザ」らしさを踏まえた表現 3b.モナリザの微妙なニュアンスを表現しようと努力し、 正確に模写できているか 3c.モナリザの微妙なニュアンスを鉛筆デッサンで表現 しようと努力した 痕跡があるか
前期期末		引き続き 模写(モナリザ) 客観的な視点で分析し、微妙なニュアンス に気づき再現する 4.コラージュ 様々な素材を切り抜くなどしたものを 自分の意図に沿って構成する 5.前期振り返りプリント 前期の授業を振り返るためのレポート	4a.コラージュについて理解し、素材を揃え作品に生か すことが出来ているか 4b.意図に沿った構図を表現できているか 4c.作品としての完成度・発想力と集中力 5c.前期のそれぞれの課題について振り返り、 学習内容・成果を文章で確認することが出来る
後期中間		6.美術史及び鑑賞 西洋美術史、仏教美術、琳派などの流れ や内容などを知る 7.ゼンタングル 画面の構成と模様と色彩による作品制作 8.鉛筆デッサン(靴) デッサンの基礎を知る 2	6a.一般教養的な美術史・作品の知識の習得 6b.テーマに沿ったレポートの作成と構成能力 6c.レポート作成・発表 興味を持ち知ろうとする探究心 7a.画面構成 7b.模様と色彩によるバランス・構成 7c.発想力と集中力 8a.靴の構成を知識として理解しているか 8b.靴の質感や色・状態が表現できているか 8c.丁寧な観察力と、集中力・客観的な視点
後期期末		9.フィギュア制作 石粘土を主な材料としてオリジナルの フィギュアを制作する 10.前期振り返りプリント 前期の授業を振り返るためのレポート	9a.立体表現を理解し、安定感、頑丈さ、安全性を考慮 しているか 9b.オリジナリティ・表現力 9c.丁寧な仕上げ 観察力と、集中力 10c.前期のそれぞれの課題について振り返り、 学習内容・成果を文章で確認することが出来る

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

教科	芸術	科目	書道 I	単位数	2単位	年次	1年
使用教科書	書 I (光村図書出版)						
副教材等							

1 授業及び学習の方法等

<ul style="list-style-type: none"> ・漢字(楷・行・草・隸・篆書)、仮名(平仮名・片仮名・変体仮名)の古典の書体、書風に即した用筆、字形、構成や表現力や創造力を養う技術、篆刻の方法を学ぶ。また、漢字仮名交じりの書では、用具・用材の特徴や目的や用途に即した表現形式、意図に基づいた表現方法を学ぶ。 ・講義(プリント)、実技(作品添削、他者の作品の鑑賞や批評)を行い授業を進める。

2 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の書、仮名の書では、古典の書体、書風に即した用筆、字形、全体の構成を理解し、それをもとに構想し、意図に基づいた表現を行うことができることを目標とする。 ・漢字仮名交じりの書では、用具・用材の特徴や目的や用途に即した表現形式、漢字と仮名の調和した字形を理解し、意図に基づいた表現を構想し工夫を行うことができることを目標とする。 ・漢字の書、仮名の書、漢字仮名交じりの書の三分野共通で、古典や現代の書、他者の作品を鑑賞し、書の良さや美しさを味わって捉えることができることを目標とする。

3 学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に取り組む態度
観 点 の 趣 旨	書の表現方法や形式、多様性などについて幅広く理解している。 書写能力の向上を図り、書の伝統にた基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けている。	書のよさや美しさを感じ、意図に基づいて構想し、工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味を考え、書的美を味わい捉えたりしている。	主体的に書の表現及び鑑賞の幅広い活動に取り組もうとしている。
評 価 方 法	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・提出作品 ・相互評価シート 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出作品 ・相互評価シート 	<ul style="list-style-type: none"> ・相互評価シート ・授業時の取り組み

※ 上に示す観点に基づいて、学習のまとめごとに評価し、学年末に5段階の評定にまとめます。

※ 学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4 学習活動

期	単元	内容(項目), 教材, 目標	主な評価規準
前期 中間	漢字の書	1.漢字の書(1) ・基本的な楷書の臨書学習 九成宮禮泉銘、孔子廟堂碑、雁塔聖教序、顔氏家廟碑 ・臨書作品の制作、臨書学習を通して、表現力や創造力を養う技術を学ぶ。書を通じて書が生み出された時代、史実を学ぶ。 ・他者の作品鑑賞や相互評価を通して、作品への理解を深める。	1a:用具・用材の特徴と表現効果との関わり、書体や書風と用筆・運筆との関わりについて理解している。 1a:古典に基づく基本的な用筆・運筆や古典の線質、字形や構成を生かした表現など、書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現する技能を身に付けている。 1b:身に付けた知識や技能を表現効果と関連付けて考察している。 1c:書の伝統と文化に関心を持ち、作品の表現の違いを意識して主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
前期 期末	漢字の書	2.作品制作(1) ・楷書の学習で習得した技能や表現力を生かした少字数作品の制作 ・楷書の学習を通じて学んだことを作品制作に生かす。紙面構成を理解する。 3.篆刻の学習 ・篆書の臨書学習、姓名印の制作 印稿、布字、運刀、補刀、押印 ・道具の使用、制作方法や用途を理解するとともに、その芸術性にも興味を持たせる。	2b:基本的な技能を用いて、意図に応じた個性的な表現、創造的な表現について構想した工夫している。 2c:主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。 3a:篆書の基本的な用筆・運筆の技法を身に付けている。 3a:基本的な篆刻の制作方法や篆刻を構成する要素、書体・書風や配字等による表現効果を理解している。 3c:書の伝統と文化に関心を持ち、作品の表現の違いを意識して主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
後期	漢字の書	4.基本的な行書、草書、隸書の臨書学習 ・蘭亭序(行)、風信帖(行)、真草千字文(草)、曹全碑(隸) ・臨書作品の制作、学習を通して、表現力や創造力を養う技術を学ぶ。書を通じて書が生み出された時代、史実を学ぶ。 ・他者の作品鑑賞や相互評価を通して、作品への理解を深める。	4a:各書体の古典の特徴と用筆・運筆との関わりについて理解している。 4a:各古典の基本的な用筆・運筆の技法を習得し、日常的な行・草書を読む知識を身につけている。 4c書の伝統と文化に関心を持ち、作品の表現の違いを意識して主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

期中間	子 仮 名 交 じ り の 書	<p>5.作品制作(2)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・楷書、行書、草書、隷書の学習で習得した技能や表現力を生かした漢字仮名交じりの書の制作 ・漢字(楷・行・草・隷書)の学習を通じて学んだことを作品制作に生かす。イメージに合った書体・書風を学ぶ。必要に応じた用具・用材について学ぶ。紙面構成を理解する。 	<p>5b:基本的な技能を用いて、自分の意図に基づいた表現を構想し工夫している。</p> <p>5c:主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>
後 期 末	仮 名 の 書	<p>6.基本的な仮名の臨書学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高野切、蓬萊切 ・日本独自の美意識や表現性を理解する。 <p>7.作品制作(3)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・仮名の学習で習得した技能や表現力を生かした少字数作品の制作 ・仮名の学習を通じて学んだことを作品制作に生かす。紙面構成を理解する。 	<p>6a:仮名の基本的な字形や用筆法や単体、連綿等の技術を習得している。変体仮名を理解している。</p> <p>6c書の伝統と文化に関心を持ち、作品の表現の違いを意識して主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p> <p>7b:基本的な技能を用いて、自分の意図に基づいて表現を構想し工夫している。</p> <p>7c:主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。</p>

※ 表中の観点について a:知識・技能, b:思考・判断・表現, c:主体的に取り組む態度 である。

5 研究課題(研究の目的, 計画, 方法)